

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月26日

事業所名 おれんじキッズ&児童デイサービス・アニマートでんろく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		必要に応じてパーティションを使っている。	視覚になるところがある為、今後も安全に注意を払い、活動を取り入れていく。
	2	職員の配置数は適切である	○		全体として常勤で5名。必要に応じて個々に職員を配置している。	運転手の確保が必要である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		フロア内はバリアフリーである。	玄関に2段の段差がある為、必要に応じてスロープや手すり等の対応を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎朝の朝礼で進捗確認や改善内容の報告等取り入れている。	今後も継続していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		今回初めての自己評価であり、話し合いを実施しているところである。	自己評価を依頼する期間を長く設けなかった為、回収に時間がかかった。今後は分かりやすく評価していただけのように配慮をする。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			発信を致します。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後どのように取り入れていくかが課題である。会議で決めていき改善につなげる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修の情報収集をおこなっている。内部では、毎月合同会議を開き、様々な研修を実施している	外部研修が少ないと感じている。独自の調べだけでなく、他事業所との連携を図りながら情報収集を行っていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者様から直接聞き取りを行い反映している。	他事業所や学校・園からも必要に応じ積極的に聞き取りを行う。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートを活用している。	今後も活用していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		1か月毎に予定を全職員で話し合いをしている。その中で担当も決めている。	今後も全職員で考えていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		職員間で共有し設定している。	今後も継続していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々に合わせて計画を作成している。	アセスメントを正確に行い内容のあるものにしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝の朝礼で確認をしている。	書式を今後活用していく。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		終業時間と送迎からの戻りが同じな為、児童発達支援管理責任者に報告をし、次の日の朝に共有している。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録行い、朝礼で課題を挙げている。必要に応じて会議の時間を設けている。変化のある個所については蛍光ペンで線をひき、全職員が気づきやすくしている。	記録する職員に偏りがある為、全職員で記録できるように、スケジュールを組んでいく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回実施。必要に応じて都度行っている	今後も継続していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		定期的にガイドラインを見返している。	継続してガイドラインに沿った支援を行いながらより良い事業所作りに努める。
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が出席している。	児童発達支援管理責任者だけでなく、担当している職員も出席する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時やお電話で情報交換や連絡調整を行っている。	今後も継続していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				問い合わせや該当者がいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	保護者様の同席、同意のもとで図っている。	今後も継続していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				該当者がいない為、対応した経験がないの為、必要に応じて今後対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		連絡をとり助言いただいている。	研修の参加をする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		長期休暇などを活用して取り入れていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		子ども部会へ参加している。	地域の会議などの機会がない為、情報収集から取り組む。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時やお電話で共通理解を持てるようにしている。	今後も継続して送迎時やお電話で情報共有・共通理解をしていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ご相談やご連絡があった際に、お話しさせていただいている。	職員の対応力の向上のため、積極的に様々な研修に参加をしていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		納得いただけるまで、説明をしている。	今後も継続していく。

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		いつでも相談していただけるように、気をつけながらコミュニケーションをとっている。	お悩み相談の時間を必要に応じて設ける。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年に2回実施した。	イベント型での保護者会を取り入れ、保護者様同士の連携をとれやすくする。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		事業所内で体制整備を行いながら担当者会議の提案など必要に応じて対応している。	相談申し入れを受け止め、心地よく通所していただけるよう努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回通信を配信している。不定期ではあるがSNSやメールで様子をお伝えしている。	今後も継続していく。
	35	個人情報に十分注意している	○		一つ一つにルールを決め、鍵付き書庫を利用し秘密の保持に努めている	今後も継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳だけでは、伝わりにくいことや児童に見られたくない内容等は、電話やメールを取り入れている。今後も取り入れていく。	今後も継続していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		お祭りを実施した。	地域住民が来られたことがないので、周知活動を行う。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		合同会議で実施している。研修は春夏秋冬の年に4回は取り入れている	保護者様の周知が弱い為、周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		2か月に1度のペースで避難訓練や体験活動の外出を計画し実施している。	今後も継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		合同会議で実施している。研修は春夏秋冬の年に4回は取り入れている	今後も継続していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		可能性のある児童については、説明し同意を得ている。	同意はもらっているが、計画には記載していないため、必要に応じて対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	○	保護者様から聞き取りを行い対応をしている。現在、医師の指示書が必要な児童がいない。	必要に応じて対応をする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		作成し、一人ずつ内容の確認を行い、確認印を取り入れている。	今後も事故に繋げないよう、ヒヤリハットを共有していく。